

令和6年度「#あおばな in 青森高校」開催概要

県内の高校生の皆さんに、知事との意見交換を通して県政を身近に感じてもらうとともに、新鮮な意見・発想や県政に対する期待等を把握し、開かれた県政の推進と今後の県政運営の参考にするため、県民対話集会「#あおばな～青森・未来・対話～」を下記のとおり開催しました。

○日時：令和6年5月9日（木）13：30～15：00

○場所：県立青森高等学校 第1体育館

○参加学生：1学年生徒240名 2学年生徒235名 3学年生徒239名 計714名

＜生徒との意見交換＞

代表生徒からの意見について知事と対話をしました。

- ①県内の医師不足解消のための取組について
- ②鉄道路線の新設について
- ③教員の処遇改善について
- ④青森県の魅力発信について
- ⑤世代を超えて話が出来る場所づくりについて

上記に係る意見交換の後、約30名の生徒が参加し、野球ボールを使ったゲームを実施して、対話の重要性について考えました。

※知事から生徒へのコメントの一部を紹介します。

- ・若者は「要望」よりも「行動」だと思う。自分が欲しい施設や、こうあったら良いということは、自分たちで実現できる。みんなには時間があるし、力もある。そういう気持ちでやっていかないと、青森県はいつまでもよくなる。人任せにしてはダメだと思う。県庁がやればいい、知事がやればいいのか、親の世代がやらないのはどうなのかと言う前に、若い人たちは「要望」ではなく「行動」。これをして初めて、青森県のスイッチがガラッと切り替わって良い県になると思うので、私から要望しておきたい。
- ・今日はいろいろな話をしたが、皆さんは皆さんだけで問いを立てて、解決の方法を考えて解決していくことが出来る。社会の進展は今とても早い。皆さんが大人になることには、今と全く違う青森高校生がいるわけだし、今と全く違う世の中になっているかもしれないが、その時に一番大切にしなければいけないのが、まさに対話。これからの学校生活も進学後も就職しても、皆さんの目の前に課題が出てくるけれど、その時には一人で抱えずに、友達や親、先生方も巻き込んで、対話の力で納得のできる答えを出してほしい。

